樫谷議員 おはようございます。それでは、質問させていただきます。わが町牟岐町として、早急に取り組まなければならない懸案事項が3つあります。一つは、この老朽化した耐震も不明である役場庁舎の移転です。二つ目は、災害時、または事故後絶対必要とされる消防署の移転先です。そして、今日質問するごみ焼却先の件です。この3つは何を置いても早急に取り組まなければならない事項と考えています。そこで、ゴミ焼却場のその後の進捗状況について質問します。6月議会で質問しました、ごみ焼却場の追跡調査として、その後の進捗状況をお聞きします。先ほど言ったように早急に取り組まなければならない。6月から3か月経っています。そこで、その後の進捗状況をお聞きしたいと思います。両町にどのような対応をし、どのような結果になったのか、まずお聞きします。また、お手元に配布していますが、6月議会で質問したときの答弁に白紙にしますと言った数分後、「ごみ焼却場、現在地で改築」と、なぜこのような新聞に報道がされたのか。しかも新施設を造るとの内容を見ますと、私達議員が何の話も聞いていない内容です。新聞を見て初めて議員が知ることのないように、今後していただきたいと思いますが、町長の見解をお聞きします。つぎに廃棄物処理については現在阿南市内で受け入れてもらっていますが、この経費が23年には49,436千円。翌年24年には50,040千円。25年には49,184千円。そして、26年には52,603千円、27年には47,830千円となり、過去5年間で、なんと249,000千円あまり廃棄物処理代として支払われています。もちろん、本年度の28年は、これに加算されますと、2.5億は軽く超すでしょう。この数字を見ても、少なくとも約20年あまりの間、牟岐町がこの廃棄物を処分していたわけですが、その間の廃棄物処分料金はいただいていません。このことを見ても、もう十分牟岐町としての任務は果せていると思います。この問題が長引けば長引くほど、老朽化した現在のごみ焼却場を使い続けなければならない現状と、加算される廃棄物の処分料金等を考えますと、早い段階での美波町、あるいは、海陽町への新設が望まれるわけですが、仮に新しく建築されるとしても開設に至るまで数年はかかることと思います。そのことも含め、早い話し合

い、早い解決策をお願いしたい。町長の今後の心構えをお聞きします。つぎに災害時に要支援者や障害者の命をどう守るかについて、質問します。災害時に要支援者や障害者を受け入れる施設は確定しているのでしょうか。災害弱者である要支援者や自力で避難することが難しいお年寄りの避難は万全なのでしょうか。一般には社会福祉協議会が指定場所となりうるとの見解ですが、牟岐町はどこが指定されているのでしょうか。いまだ指定場所を定めていないのでしょうか。また、要支援者の周知はなされているのかも併せてお聞きします。防災対応能力が必要とされる中、8月26日の新聞報道によりますと、県内での福祉避難所の運営マニュアルが作成されているのが、徳島県が38.1%、隣の高知県では83.7%と倍以上の開きが出ているとのことですが、わが町牟岐町でも体制整備が急務と考えます。牟岐町内複数の施設がありますが、岩手県の高齢者グループホームでの9人が死亡した台風10号の被害は、災害に対する危機意識の薄さが被害拡大を招いたと言っても過言ではありません。岩手県のグループホーム「楽ん楽ん」の教訓を本町ではどう生かせるのか、職員の少ない夜間に災害が起きれば当然入所者の誘導が限られてくる、ある程度の職員の確保できる体制を整えたりすることも必要であると考えます。町内の各施設連携についても体制状況、災害時の要支援者の周知徹底、施設との連携や自力で避難することの難しい高齢者や障害者の人たちの避難誘導等、安全確保をどう進めているのか、牟岐町福祉協議会との役目は、どうなっているのかも併せてお聞きします。以上、2項目について答弁をお願いします。

杣富議長 福井町長。

福井町長 樫谷議員のご質問にお答えいたします。まず、ゴミ焼却場のその後の進捗状況についてですが、先の6月議会で、私が建設地は現時点では白紙の状況とお答えしながらも、私の焼却場にかかる考えを述べたことで、あのような新聞報道になったと推測されますが、その後、行政常任委員会において、「牟岐町議会では、現在地での改築は承認しない」旨の意見が多数であったこ

とから、両町には、その旨の説明をしました。これを受け、両町議会で、各町長から「牟岐町議会では、現在地での改築は承認せず、平成18年の6町合意を守るべきである」との意見が大勢である旨、話しをされたと同っています。しかしながら、その後、建設予定地の選定は、全く進んでいないということです。したがって、今後、この問題を如何に解決していくかとのことですが、私は、再度、私の意見を皆様方にご説明し、議員の皆様や町民の皆さまのご判断を仰ぎたいと考えています。まず現状とこれまでの経緯を申し上げますと、現在のゴミ焼却場は建設後37年が経過し、一般的な耐用年数である20年から30年を大幅に過ぎています。しかも、改築には、現在地でこれから7年、移転地では、場所が決まってから9年の歳月を要する大事業となります。当初の建築は、牟岐町が海部郡6町の中心にあり、海部病院や警察をはじめ多くの公共施設が牟岐町に設置されたことから、その整合性から牟岐町に建設されたものと聞いていますが、灰の最終処分場については将来、満杯になれば牟岐町以外で建設する予定であったとの話しを聞いています。しかしながら、これまで牟岐町議会でも、また、一部事務組合の議会でも、つぎのゴミ焼却場の位置が議論されることもなく、私が昨年、焼却場の改築を現在地で行いたい旨説明したところ、住民の方から反対意見があり、問題化していると認識しています。本来、耐用年数が20年から30年程度のゴミ焼却場を持ち回りで建築していくのであれば、当然、当初の建築時点から議論が開始されるはずですが、昨年まで何の議論もなく、平成18年3月の6町合意の後も、既に耐用年数が来ていたにもかかわらず、移転の話もなく、6町合意も実施されていませんでした。平成24年3月2日と平成25年2月26日、私が組合議会の挨拶のなかで、もう改築せねば焼却炉がもたない旨の話しをしても、議論とはならず、当時のお隣の町長に6町合意の話しをしても、「あれは当時の町長が誰も居ないから意味がない」と言われ、話になりませんでした。つまり、焼却炉の移転は、これまで話題にも上がらず昨年までできています。通常、ゴミ焼却施設の建設ともなると、新しい土地では2年から3年環境影響調査をしなければならず、各種許認可も必要となり、多大な手間とコストがかかります。さらに移転

地を探し住民の方の理解を得、造成をするとなると、さらに数年を要することとなります。以上、申し上げたことと、つぎのような理由で、私は、6月議会でも述べましたように、現時点では、現在地での改築が最善であると考え、昨年、周辺地域の皆様へご説明申し上げた次第です。つまり、現在地は、海部郡のほぼ中心にあること。土地・道路の造成費・建設費が要らないことから改築費用が安くなること。牟岐町にとり財政負担が少なく、周辺地域の環境整備も行えることなどです。さらに、6月議会でも申し上げましたように、これからのゴミ焼却場は、迷惑施設であってはならず、平時及び災害時に欠かすことのできないインフラ施設であるということです。つまり、平時は、最先端の技術に基づく公害のない焼却施設であり、周辺環境を保全するための空気環境等監視施設及び環境問題啓発施設であり、周辺地域の方々の利便施設、あるいは、保養施設でなければならないと考えています。また、災害時には、ガレキ等のゴミを処理するだけでなく、入浴施設を備えた地域の避難所としても活用できるよう計画してまいりたいと考えています。牟岐町で、このような新しいゴミ処理施設・環境保全施設・アメニティ施設の建設により、牟岐町及び海部郡の活性化に資する施設として、また、災害拠点施設としてPRしてまいりたいと考えています。以上、申し上げましたように、私は、このゴミ焼却場は、平時と災害時の町環境保全施設・健康保健施設と考えていますので、今後、皆様方に粘り強くご説明をしてまいりたいと考えています。つぎに災害時に要支援者や障害者の命を如何に守るかのご質問ですが、現在、牟岐町において福祉避難所として指定しているのは、海部老人ホーム、緑風荘、和楽の3施設であり、平成23年に「災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結しています。また、要支援者については、平成26年徳島県策定の「災害時要援護者支援対策マニュアル」に基づき、災害時に要支援者を適切に避難誘導、救出・救護するために、民生委員の方々と連携し、災害時要援護者の状況把握と名簿作成に努めています。この結果、現時点では、災害時の要支援者や障害者を受け入れる施設数は十分ではありませんが、二次避難所において生活が困難で、必要性の高い方から福祉避難所に入所していただくことになって

います。要支援者の名簿等の情報提供についてですが、基本的に個人のプライバシーに関する事で、積極的に周知は行っていませんが、要支援者等の同意を得た場合は、消防や警察、社会福祉協議会、自主防災組織及び民生員などの方々に情報提供しています。つぎに台風10号災害による、岩手県の高齢者グループホームの被災の原因は、施設の位置や建物に大きな問題があったことが一番ですが、これを補うソフト対策が取られていなかった、つまり、被災まで町からの避難勧告や指示の発令がなかったこと、あるいは、施設管理者の防災に対する備えがほとんどできていなかったことなどが挙げられています。つまり高齢者や認知症の入所者は、緊急時の迅速避難は極めて困難であることから、避難準備情報の発令と共に要支援者は避難を開始することとされていますが、当施設の管理者も「町から『避難準備情報』が出されていたことは知っていたが、それが災害時要援護者の避難開始を意味するとは知らなかった。また、避難マニュアルはなく、避難訓練もしていなかった」ということです。このようなことから、本町におきましても、再度、要援護者施設の施設管理者と防災に関する危機意識や理解を共有し、各種避難情報の意味を十分理解していただくと共に、避難マニュアルの策定、BCP計画の策定、あるいは、これらを基にした防災対策や避難訓練の実施に連携して取り組んでまいりたいと考えています。つぎに、町内施設への連携と牟岐町社会福祉協議会の役割についてですが、牟岐町は、災害発生時に、福祉避難所に対し、一般の避難所での生活が困難な要支援者の受入れを依頼するとともに、要支援者を適切に介護できるよう、介護士や看護師、ボランティア等介護者の確保に連携して取り組むこととしています。また、災害時の社会福祉協議会の役割ですが、通常業務の延長としての避難所での介護、あるいは、介護支援の他、主たる業務として、災害ボランティアセンターの設置運営があります。町外からお越し頂くボランティアの方々を、被災者の要望に応じて派遣調整する業務です。当然、福祉避難所での介護士等の派遣要請にも、ボランティアの方々を調整し派遣するという業務も含まれることとなります。今後、災害時に備え、そのような派遣訓練等も実施してまいりたいと考えています。

木田住民福祉課長 それでは、要支援者の避難誘導をどう進めるかについて、町長の答弁の補足説明をさせていただきます。要支援者のうち平常時におきまず情報提供に同意のありました方について、地域の支援者の人選を自主防災組織に依頼をしていますが、人選の方は進んでいません。地域で支援者が決まれば、要支援者一人ひとりについて個別の避難計画を作成していくこととなります。自主防災組織の実際の避難支援にかかわる関係者と情報を共有しまして、関係者が中心になって要支援者本人と避難場所、避難経路、情報伝達の方法について協議をしていきたいと思っています。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再問させていただきます。町長においては、ゴミ焼却場について、周辺の方の住民の反対、あるいは、この間の行政常任委員会での議員の反対、それを受けてでも現在地でやりたいという意向には変わりはないですか。もし町長がその思いでするのであれば、なぜ両町にそういった施設ができるのでやっていただけませんかという働きかけができないのでしょうか。もし町長の今考えておられるお話が本当に夢のあるようなお話しであれば、両町長も、また、両町の方々も賛同すると思うのですが、その話しをどうしたかお願いしたいと思います。それから、先ほど町長は、その場に居た周辺の住民、あるいは、議会で発言した人だけが反対しているのではないかというふうな少し誤った考えを持っているのではないかと、そういうふうに思います。それは新聞の中身でもその思いが入っています。けっして発言をしなくても、特に議員の場合は、自分とは違うような発言があった場合は、そうでないということを議員の場合は言います。それが反対の発言がないということは、今、おっしゃられている意見に同意するというような形にとられるのが普通だと思います。だから、反対意見を言った人だけが反対であるというのは、町長、少し考えを改めていただきたいと思います。今、私が一般質問しました、この用紙にありまし

たことは、議員は施設を造るということは聞いていないのです。それも踏まえて行動に移る前に議員にこういう施設にしたいというお話をまず、ぜひ今後つくっていただきたいという私の一般質問の中の内容がありますけど、そのことについては、まだ答弁がありませんので、それもお聞きしたいと思います。それから、さきほどの答弁ですと、両町に牟岐町がするという意欲満々に聞こえます。そういうことを両町にお話ししても引き取ることは不可能だと思います。今までの町長が何もしてこなかったのというようなお話もありましたけど、今までの町長、前々町長は公文書、町長もご存知だと思いますけど、これを作成して、当時、3町ではありませんでした。6町でこういうふうな申し合わせ書を作っています。これは後々、問題になるだろうということで作ったのだらうと思います。町長は、このこともご存知です。ご存知ですけど、何も他から話しがされなかったの、話ができなかったという答弁でしたけど、町長が動かなかつたら両町は動きません。この話しについては、したくない施設ですから、町で私もします、しますという施設ではないのですから、牟岐町が他町にしていきたいというのであれば、牟岐町が動かなければ、他町から動きはないと思うのです。率先して、町長になられたのですから、このことも踏まえて両町に話しをするというのは、町長の任務です。ましてこのようなごみ焼却場は現地で改築なんていう報道が出ますと、両町は牟岐でしてくれるのだという思いになっても仕方がないと思います。それで、その件について、私はどうしてこのようなことになったのかということ質問したのです。6月議会で焼却場のことも質問しました。内容は公文書のことと今後のことについて質問しました。今回は、それを一歩進んだ質問だと思っています。3か月経っていますので、その後、両町で話しをしました。その話の結果がどうだったのかということも踏まえて答弁をしていただきたいかったです。そこもよろしくお願いします。それから、2問目の答弁に福祉避難所がどこになっているのか。どこに決めているのかも併せてお聞きしたいと思います。先ほどの答弁で福祉避難所になっているということで答弁があったので、その福祉避難所というのはどこになっているのか。そして、ご存知のように要支援1、2、それか

ら介護1から5までの7段階について、各町で把握していると思うのです。確かに個人的なこともあります。ソフト的なこともありますけれども、地域の中であの人は援助が必要ではないか、一人では無理だというのは地域が分かっています。個人情報をする前に地域が分かっています。私達地域の中でもこのことについては、話し合いを何度かしています。その方の支援をお願いしたいと言っても、なかなか手を上げてくれません。災害があった時間が夜とは限りません。昼間である場合もあります。昼間にお仕事している場合がありますので、もしあそこは私がしますと返事したときに、その職場からそこまで帰る時間、そういったことを考えると、とてもでないけど、「はい」と手を上げられないということで、なかなか決まっていけない状態が現状であると思うのです。個人情報云々の前に命を助けるということを優先していただいて、個人情報は確かに守らなければならないことだと思いますけれども、地域はすでに分かっていますので、その地域の方達と連携して、今後進めていかなければ、今の状態では取り残されてしまうというふうなことが非常に濃いと思いますので、各施設の連携、これからするのですか。もう既にやられているのですか。そのことも踏まえて質問したいと思いますので、よろしくお願いします。

杣富議長 福井町長。

福井町長 ご質問には全てお答えさせていただいていますが、再度、住民の反対を受けてもするのかということですが、それと、また、議員の皆さんに先にやることをご説明すべきではないかということも併せて。新聞報道で現在地で改築というふうに載ったのは、そのタイトルは別にして、決定事項、牟岐町でやることが決まったことを載せたというのではないということは、本文に書かれているということですが、私の考えがそういう考えであるということを書いているということです。つまり進行していくのではなくて、私の現在の考えがそうであるということであって、何も全くどこでやるかというのは白紙の状態ですから、どこで決めてもいいのですけど、現在地以外では、非常に

時間がかかりますよということなのです。それと、その順番というのが、例えば、牟岐町でやったら、つぎはどこでやるという順番が決まっていないう中で、ではどちらでやるのかということになる。まずそこから決めていかなければいけないのです。そういうふうななじ取りを誰がやるのかということですけど、これはまさしく最初にやるときに決めておかないと、後から古くなってきたらつぎどこにするという話しでは、本当に間に合わないのです。そこを私は申し上げているのですが、つまり、今からでは現在地をどちらの町でやるかということを決めること自体が時間がかかる。だから、今回、牟岐町は次回どうするかという決め方はできるかも分からないですけど、それでもつぎにやるのは30年先になります。30年先のことを今の人間が決めるかどうかということかも知れないですけど、決められるかどうかということですけど、それも非常に難しいことではないかと思っています。それと、反対を受けても、もう一度やるということではなくて、私の考えは、焼却施設というのは、牟岐町にとって非常に必要なインフラであると、だから進めたい。また、保養施設にもなりうる施設であるということです。温泉であるとか、温水プールを併設することが可能であるということで、住民の説明会の中でもこういう施設ができるのだったらやっていただいてもいいというご意見もありました。そういう意見があるのはご存知ではないですか。温泉とか温水プールがあればいいのではないかという、ですから、まだ皆さん牟岐町の方全部が反対しているということではなくて、一部の人が反対しているというという認識でいますので、住民の皆さんが反対されても進めるかというのは、現時点ではお答えできないと思います。それと、施設の具体的な内容も私が考えている段階のことですから、皆さんに公表するところまでいっていないのですが、先ほどご回答の中でも申し上げましたように、最新鋭の焼却施設、焼却炉を設置するということと、当然、何らかの公害を出す施設ですので、その監視をできるような施設、それを併設する、あるいは、環境問題を啓発するような施設も併設する。尚且つ、町民の方、周辺の方が利用できるようなアメニティ施設を併設するということがかなと思っています。それと、私が言いたかったのは、6町合意はいいのですけ

ど、それから、後の取り組みが全くないのです。つまり合意していた段階でも改修の時期にきているのです。平成18年ということは、炉を建設してから焼却場が現在のところまでできてから26年経過しているのです。その時点で行動を開始せずにいつやるかということになるのです。すぐにでも改築を着手しても良い時期にきているのです。そこから議論が進んでいないということは、どういうわけか、もう一つよく分からないのですが、それを言いたいのですけど、突き詰めていったらぎくしゃくしますので、簡単に言っているのですけど、それと、福祉避難所の位置ですけど、これも先ほどご回答したと思うのですが、現在では海部老人ホームと緑風荘、和楽です。この3つです。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再々問いいですか。

枅富議長 はい。

榎谷議員 住民の方とおっしゃられましたけど、町長、周辺の住民にしかお話に言っていないでしょ。各地域回って話ししに言っていないでしょ。だから、住民の方と言ったのは、周辺住民の方を指しています。他の住民の方には説明しに行っていないので、だから、周辺住民ということ指しています。住民の方というのはそういうことで私は言ったつもりです。というのは、今言ったように町長が他の地域に説明に行っていないので、周辺住民ということで、住民という話しをさせていただいたわけです。美波町にしろ海陽町にしろどちらかという話しですけど、どっちにしろどちらでも良いのです。どちらかが引き受けていただければ、牟岐町は任務を果たしていますので、牟岐町以外の美波町でも海陽町でもどちらでもいいのです。それは、牟岐町が音頭を取ってどちらかに引き受けていただくというような音頭を取らなければ、両方は迷惑施設は要らないのですから、私がやりますと絶対に

放っておいたらしてきません。確かに町長の言うように前々町長のときには、こういうふうな同意書をしました。つぎの前町長のときにはしていません。何も、確かにしていないのです。このことについては、しなければいけないのにしていないのです。前町長のときには、でも今は福井町長、あなたが町長なので、あなたが動かなければ誰も動きません。まず町長が今任務を果たしていただくためには、両町に話し合いをしていただいて、美波町か海陽町かどちらかの町に決めていただきますように話しをしていただきたい。町長が今、夢を描いています焼却場の件についても、そういうこともできるのではないですかと、ぜひ進めていただきたいと思います。近々に冒頭に申しましたが、3つの問題、懸案事項、これは牟岐町として何を置いてでもしなければいけない問題なのです。特に焼却場については、年数がきていますので、早速やらなければいけないので、両町の町長が何も言ってこないで、両町が言ってこないでと置いて放っておいたら、このまま永遠と牟岐町がするような新設もできないままで永遠とするような形になりますので、ぜひ牟岐町以外の美波町、海陽町にお話ししていただいて、どちらかに引き受けていただくようお願いしたいと思います。それでどちらかが今後引き受けていただいたら、残った町がつぎするということを踏まえてバトンタッチができるように、そこまで牟岐町が持っていかなければいけないのではないかと思います。夢のような施設ができると言いますが、過去、温泉をしたところも温度が足らなくて、焚いているというところもありますので、やっぱり焚かなければいけないということで、それだけではできないということで、そういう経緯もありますので、それだけで温水プール、あるいは、温泉が沸けるというふうなことでもありませんので、そこら辺りをもっと調査していただいて、夢を描いていただければと思います。その夢は他町に描いていただきたい、私はそう思いますので、それをお願いしたいと思います。今、何でこの報道のことをしつこく言うかということ、記者が来て取材したということは、記事に載るということです。記事に載るということは、思いだけを言っては駄目なのです。答弁したことを踏まえて、私の思いはこうなのですと仮に言ったとしても、でも議会でも周辺の方に

も反対の意見がありますので、まだ今のところ白紙です。最後の1行、2行、3行でもそれを言っていただいたらだいぶ違うと思うのですが、その文言が1行もありません。他町の人がこれを見ると、牟岐町が引き受けてくれるのだという誤解をされても仕方がないことなのです。その誤解は誰が招いたかと言ったら、町長、あなたが招いているのです。新聞報道、記者がくるということは、これが出るということなのです。今、言ったことが記事になるということなのです。それを踏まえて話しをしていただかないと、こういった両町に誤解を招くような状況になると思うのです。それを私は考えて欲しいということを言っているのです。あくまでも美波町、海陽町、どちらかに引き受けていただくと、残ったどちらかはつぎの段階で引き受けていただくというふうなことに持っていかなければ、誰が決めるのですか。30年後どうするのですかというのは決めておかなければいけないのです。今の時点で、このもめているときに、それをぜひ福井町長にやっていただきたい。そう思います。それから、避難については漠然として、まだまだきちとしたことができていないように思いますけれども、今後避難ということは、ソフトな面もありいろんなこともありますけれども、前に私がきました情けの情というか、家族の中でそれを考えて、家族の中でかまわないから放って行ってくれというふうなことまで話し合いをしていかなければいけない問題だと思うのです。個人情報は大変ですけど、個人の命の方が大事だと思いますので、できるだけ命を助けるためにどうしたらいいのか、要支援者も含めて、重症患者も含めてどうしたらいいのかということを考えていただきたいと思います。特に牟岐町には施設が多いので、その施設の方に連携して災害時には、みんなが命が助かる方法で一つでも二つでもクリアしていけるような状態でやっていただきたいと思いますので、これは私の思いと考えですので、長々と再問、再々問としていけませんので、一般質問を終わりますけど、今のことを踏まえて、町長、お願いしたいと思います。これで私の一般質問を終わります。